

2-(1) 法人本部

I. 2020（令和2）年度事業の概要

学校法人東京国際大学は、「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、東京国際大学、東京国際大学付属日本語学校、一橋学院早慶外語という三つの設置校を通じて教育事業を展開している。

2020（令和2）年度は、前年度末から世界的パンデミック状況を呈した新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける年となった。各設置校は、学生・生徒、教職員、その家族、さらには社会全体の健康、命を守ることを最優先するという立場から、遠隔授業の対応等、それぞれの教育事業の特性に応じた感染防止対策を実施しつつ教育事業を継続した。当該危機対応を通じ、オンライン教育基盤、リモートワーク・インフラの整備に法人全体で取り組んだことは、2023（令和5）年度の東京国際大学池袋キャンパス開校に向けての多拠点間連携インフラの整備前倒しに繋がった。

2020（令和2）年度は、2019年12月策定の学校法人東京国際大学中期計画の実質初年度に当たる。新型コロナウイルス感染症により、中期計画に掲げた国際教育事業の一部については、当年度中の実施を見合わせざるをえなかったが、それ以外の主要項目は、ほぼ計画とおり遂行できており、計画の修正は行わない。

II. 事業項目

1. 組織・体制

(1) 東京国際大学の組織・体制拡充

2018（平成30）年4月9日、理事会は東京国際大学学部定員中期拡充計画を決議した。当該計画に基づき、①医療健康学部の設置、②経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の収容定員増につき認可申請を行い、いずれも2021（令和3）年4月実施が認可された。これにより、東京国際大学の収容定員は、6,420人から7,240人に820人増員となる。

経済学部経済学科収容定員については、当初1,740人から340人増員の2,080人への拡充を計画していたが、認可申請の過程で見直しを行い、160人増の1,900人への拡充に修正した。

医療健康学部の開設に向け教員採用を実施した。医療健康学部は理学療法学科1学科、収容定員320人、教員21人（うち教授8人）にてスタートする。

2. 施設・設備

(1) 東京国際大学池袋キャンパスの建設

2020（令和2）年9月30日、独立行政法人都市再生機構より、東京国際大学池袋キャンパス用地（東京都豊島区東池袋4丁目3277番202、地積10,000.05㎡）の引渡を受け、2023（令和5）年5月竣工に向け、校舎建設工事に着手した。

3. 財務

(1) 資金調達

東京国際大学池袋キャンパス用地取得資金充当を目的として、日本私立学校振興・共済事業団より10,000百万円の借入を行った。

(2) 資金運用

東京国際大学池袋キャンパス建設を控え、金融資産は全額現預金にて保有した。

2-(2) 東京国際大学

I. 2020（令和2）年度事業の概要

東京国際大学は「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

年度当初から未曾有のコロナウイルス感染拡大により、授業運営等について大幅な変更を余儀なくされたが、学生、教職員、その家族、さらには社会全体の健康、命を守ることを最優先するという立場の下、教職員一体となってシステム構築、オンライン授業への習熟を迅速に行い、他学に先駆けて非対面での授業を開始し、学生の学びを確保した。また、コロナ禍で困窮する学生に対しては新型コロナウイルス対応特別奨学金制度を創設するなど、経済面での学生支援も図った。秋学期以降は、一部対面での授業を再開して学生の学びの質的向上を図るとともに、キャンパス内に様々な感染防止対策を取った上で、2021（令和3）年度からは対面を中心とした授業運営を開始している。学生募集においてもWeb オープンキャンパスやオンライン相談を導入し、対面のオープンキャンパスに加えて受験生・保護者との接点確保に努めた。入試では、首都圏外の受験生を対象にオンライン面接や在宅でのCBT入試方式を導入し、広域での志願者・入学者の確保を図った。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ2学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。2020（令和2）年5月時点の体育会系クラブ所属学生数は1,040名、全学部所属学生の17%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し多様な施策を展開している。2014年度（平成26年度）にスタートした英語で学位取得可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）」には、2020（令和2）年10月時点で世界60ヶ国から1,138人の学生が在籍、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）には、50人を擁し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。ASP以外にもISEP交換留学をはじめ多様な留学プログラムを拡充し、学生の多様な留学ニーズに対応している。

本学教育事業基盤については、新学部「医療健康学部」の設置認可を受け、「理学療法学科」一学科体制で2021（令和3）年4月に入学定員80名で開設した。併せて、経済学

部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の定員増も認可を受け、2021（令和3）年度から125名の入学定員増となった。

建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動を推進している。日本文化研究所では、文化講演会の開催等、日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育を展開している。

副都心池袋に本学のグローバル化教育の機能を集約した都市型キャンパスを開設する。2020（令和2）年10月に土地の引渡しを受け、2023（令和5）年9月開校を予定する。新キャンパスには、Eトラックをはじめ本学のグローバル教育機能を集約し、川越キャンパスの収容定員約7,000人のうち3,500人を移転する計画である。世界各国から教員・研究者を招聘し、国策に沿った国際ブレイン・サーキュレーション拠点を構築する。川越キャンパスとは東武東上線・東京メトロ有楽町線一本で接続され、川越キャンパス、坂戸キャンパスと池袋キャンパスを結ぶ各種プログラムの開発も進める。池袋に都市型キャンパスを構築することにより、川越・坂戸キャンパスと一体化されたグローバル化教育の基盤を一層強固なものにする。

II. 事業項目

1. 教育内容の充実

(1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。 ● サッカー部、女子サッカー部、駅伝部、ウエイトリフティング部、硬式野球部、女子ソフトボール部、ゴルフ部、硬式庭球部、アメリカンフットボール部、剣道部、チアリーディング部、アーチェリー部を強化スポーツクラブに指定。 ● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。 ● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を設置している。

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）拡充

実施事項：	英語で学位取得が可能なEトラックを学部・大学院に設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 学部では、2014（平成26）年度より経済学部及び国際関係学部横断でEトラックを設置、「Business Economics Major」及び「International Relations Major」の二主専攻（Major）を設置した。● また、2019年秋学期には、第三の主専攻（Major）として「Digital Business & Innovation Major」を新設、2020年度から本格的な学生募集を開始した。● 大学院では、商学研究科、経済学研究科、国際関係学研究科にてEトラックを設置している。● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、2020（令和2）年10月時点で、世界60ヶ国から1,138人の学生が在籍している。● Eトラック推進のため、教員組織の強化に加え外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる。● ベトナム、インドネシア、タイに現地事務所を開設する等、世界各国からの学生募集に積極的に取り組んでいる。

② グローバルビジネスコースの開設

実施事項：	2020（令和2）年度より言語コミュニケーション学部にて即戦力ビジネスパーソン育成を狙いとしたグローバルビジネスコースを開設。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 留学に加え、企業との連携によるPBLや国内外インターンシップ等の実践教育を徹底し、英語力のある即戦力ビジネスパーソンを育成する。● グローバルビジネスコース入試制度により、有為な人材の募集を図る。

③ グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）事業展開

実施事項：	英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）による英語教育強化。
-------	--

事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● GTI所属英語ネイティブ教員は50名の体制。 ● 学長直轄組織として活動対象は言語コミュニケーション学部にとまらず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。2018年度（平成30年度）には、人間社会学部のグローバルスポーツ・プログラムの担当もスタートした。 ● 60分週3回、1クラス10人前後の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。 ● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、GTFを常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。
-------	--

④ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）の事業展開

実施事項：	日本語教育組織ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）によるEトラック学生の日本語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織JLIを設置している。 ● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム（JSP）在籍学生の日本語教育を専担する。

⑤ アメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）の充実

実施事項：	ウィラメット大学で開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）を本学の旗艦留学プログラムと位置付け、GTIによる教育との連動等教育効果の向上を図っている。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学（米国オレゴン州）にて開講されるASPには、毎年約100名の学生が参加し、約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル化教育の柱となっている。 ● 米国における新型コロナウイルス蔓延の深刻化により、2020（令和2）年ASPについては、2月出発後、4月初をもって全員帰国措置を取った。 ● 2022（令和4）年8月再開を目指して、プログラムの再構築を図っている。

(3) 建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動の推進

① 日本文化研究所主催の教育・啓蒙活動の推進

実施事項：	日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育の展開。
事業内容：	● 「日本の文化と世界」を共通テーマとする講演会を毎年開催。本年度はコロナ禍で開催を見送った。

② 国際シンポジウムの開催

実施事項：	国際シンポジウム「日本と世界 Part6」の企画。
事業内容：	● 従来、ハーバード大学ジョセフ・ナイ教授、外交評論家・MIT国際研究センター シニアフェロー岡本行夫氏による講演・パネルディスカッションを実施。本年度はコロナ禍で開催を見送った。

(4) キャンパス内外におけるジェネリック・スキルの涵養

① 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	● 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたことを契機に全学的に取り組んでいる。 ● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。 ● 地域を越えたまちづくりコンテストにも積極的に参加、コンテストでの受賞にもつながっている。

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。 ● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。

③ 学生スタッフ成長プログラム

実施事項：	大学内で働く学生を計画的に育成していくことにより、学生の力を大学で活用していくとともに学生自身の就業力を強化する。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生活デザイン演習の授業サポートを担うスチューデントファシリテーター（SF）を拡充し、オンライン授業にも対応している。 ● また、キャンパスのグローバル化推進に学生スタッフを全面的に巻き込むため、スチューデント・リーダーシップ・インターンシップ（SLI）も推進、English PLAZAやJapanese PLAZAの運営等に中核となって参加している。 ● 学生スタッフを育成し活用していくために「学生スタッフ成長プログラム」を導入。SFやSLIメンバー、オープンキャンパス・スタッフ等が参加している。 ● ジュニア・ミドル・トレーナーという3段階のレベルを設定し、能力向上を促進している。

2. 卒業後進路の開発

(1) 就職支援体制の強化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制拡充。オンライン化にも迅速に対応。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置した。 ● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。 ● Eトラック学生に対しては、一年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけていく。また、インターンシップ・プログラムも拡充している。

(2) 教職支援センターの設置による学生サポート強化

実施事項：	教員志望の学生に対する情報提供、教員採用試験受験の支援のため教職支援センターを設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育行政に永年勤務経験を持つ指導員が常駐。 ● 教員採用試験に関する個別相談、教員採用に関する情報・資料提供、教員採用試験に関する対策講座等の開催、「教職支援セミナー」の開催等。

3. 教育事業基盤の拡充

(1) 医療健康学部設置認可

実施事項：	2021（令和3）年度設置に向け認可申請を行い、2020（令和2）年10月に認可された。
事業内容：	● 2020（令和2）年3月学部設置認可申請書提出。10月認可。

(2) 収容定員増認可

実施事項：	学部入学定員中期拡充計画に則った経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の収容定員増認可申請を行い、2020（令和2）年9月に入学定員125名増で認可された。
事業内容：	● 2020（令和2）年3月収容定員増申請書提出。9月認可。

(3) 収容定員増認可申請

実施事項：	学部志願者増に対応して、商学部経営学科、人間社会学部福祉心理学科の収容定員増認可申請（100名）を行う。
事業内容：	● 2021（令和3）年6月収容定員増申請書提出予定。

4. 施設・設備の整備

(1) 池袋キャンパス建設計画

① 計画概要

設置プログラム、学部等	経済学部、国際関係学部、言語コミュニケーション学部を中心に移転を計画。商学部に関しても一部コースの池袋開講を企画。	
校地	地区名	豊島区造幣局地区（市街地 A 画地）
	所在地	東京都豊島区東池袋四丁目 3277 番 202 の一部
	地積	10,000.05 m ²
	引渡し	2020 年 10 月
校舎	階数	地上 22 階
	延床面積	約 35,000 m ²
	工期	2020 年 11 月～2023 年 5 月
	開校	2023 年 9 月
	学生数	約 3,500 人

② 機関決定の経緯

2013年5月29日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017年7月3日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017年10月23日	理事会にて豊島区造幣局地区(市街地A画地)土地譲渡契約の締結を承認
2017年11月7日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018年1月12日	理事会にて池袋キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結を承認
2018年4月9日	理事会にて池袋キャンパス収容定員構成計画及び学部入学定員中期拡充計画を決議

2-(3) 東京国際大学附属日本語学校

I. 2020（令和2）年度事業の概要

新型コロナウイルス COVID19 のパンデミックとそれに伴った全世界からの入国禁止措置が学生募集に大きく影響し、入学者数は前年と比べて、ほぼ半減した。一方コロナウイルス感染防止策の一環でオンライン授業を導入したが、それはまた入国できない学生が母国にて授業を受けることも可能にした。オンライン授業であっても「進学に強い日本語学校」としての教育の質をできる限り維持できるように努力し、その結果、卒業生の絶対人数は減ったものの、進学者の割合は前年と比べて約 10%pt 増えている。進路指導においても、オンラインにより質の低下が起きないように回数を増やすなど工夫をこらした。

II. 事業項目

1. 正規課程 入学者数実績

課程	日本語教育課程 A	準備教育課程※	日本語教育課程 B
授業時間	全日制(週 26 コマ)		半日制(週 20 コマ)
入学時期	4 月 (1 年コース) 47 人		4 月 (1 年、2 年コース) 30 人
就学期間	7 月 (1.9 年コース) 7 人 10 月 (1.5 年コース) 22 人		10 月 (1.5 年コース) 10 人
合計	116 人		

※準備教育課程：高校修了まで 12 年を要しない国の学生を対象として、日本の大学入学資格を与えるための、文部科学省の指定を受けた課程。2020 年度入学者数実績 9 人。

2. 短期聴講 (1 か月～3 か月)

- ・入学者数実績 合計 2 人、内訳：4 月 1 人、10 月 1 人

3. 進路指導

- ・第 1 回進路ガイダンス(留学生進路状況の説明と進路指導年間スケジュール紹介)
4 月、計 1 回開催
- ・第 2 回進路ガイダンス (受験スケジュールの立て方、大学・専門学校の違い)
4 月、計 1 回開催
- ・第 3 回進路ガイダンス (大学・専門学校対象者別に受験校選びのポイント説明)
5 月～6 月、計 7 回開催
- ・第 4 回進路ガイダンス (夏期休暇中に行うべき受験準備)
7 月、計 2 回開催
- ・校内進路説明会・相談会
東京国際大学進路説明会・相談会 8 月 28 日実施
- ・進路相談室通信(No.1～No.10、不定期発行)
国外からのオンライン授業受講生を対象にオリジナル進路資料の提供。
- ・個別指導
進路指導室職員と担任教員による随時の指導/相談に加え、教務主任と事務局長による本番を想定した面接指導を行い、万全の体制で進路指導を実施。
- ・2020 年度卒業生の進路別内訳は以下のとおり。

大学院	大学	専門学校	就職	帰国	その他	計
3 人	40 人	49 人	0 人	23 人	7 人	122 人

2-(4) 一橋学院早慶外語

I. 2020 年度事業の概要

I-1. 外部環境

18 歳人口の継続的減少と他予備校との競合激化に加え、「大学入学共通テスト」の導入および新型コロナウイルス感染拡大の影響による受験生の「浪人回避」傾向の加速により入学者募集は苦戦した。

また、3月の全国一斉臨時休校措置に続く緊急事態宣言発出を受け、4月の新学期から急遽対面授業を取り止め、6月上旬までの間全講座を録画放映に切替えて実施した。

I-2. メディカルコネクト

従来の「プライム国立大医進クラス」を発展させ 2019 年度より新たな医学部進学専門予備校として開校した「一橋学院メディカルコネクト」は 2 年目を迎えた。

生徒数も前年の 3 名から 6 名に倍増したが、少人数での肌理細かな指導の成果により、国立大学や難関私立大学など各々の志望大学への合格を実現した。

I-3. 「創立 70 周年」記念

2021 年 8 月に創立 70 周年を迎えるにあたり、校舎の全館リニューアル工事を順次進めるとともに、新年度に向けたカリキュラムの改定、奨学金制度の拡充等を行った。

II. 事業項目

II-1 レギュラー授業

① 「高卒生コース」は、本人の志望系統と学力レベルに合わせ「国公立大文系」「同理系」「私立大文系」「同理系」の各クラスに対応した幅広い講座を開講した。

② 「高校生コース」も、教科ごとに学力レベルに合わせた講座を設定した。

特に高 3 生対象に東大・一橋大プライムゼミという特別カリキュラムを設置する一方、演習クラスである「個トレ（個別トレーニング）」も補完的に授業本体に組み入れられており、受験を迎える生徒のさまざまなニーズに応えている。

③ 「メディカルコネクト」は、医学部受験に特化した講座を 1 クラス数名以下の少人数で実施するとともに、個別指導による弱点補強も組合せ、学力増強を図った。

II-2 各期講習

① 「春期講習」は、高校の春休みを利用して、新学期の準備のために開講されるコンパクトな講座主体に編成した。

② 「夏期講習」は、通常 1 ヶ月半にわたり受験の山場となる重要な講習であるが、近年各高校が自ら実施する夏期校内講習に対抗し、大学受験予備校ならではの魅力ある講座編成に注力した。

③ 「冬期講習・直前講習」は、高 3 生、高卒生に対しては入試対策の総まとめと志望校受験対策をメインに、高 1 生、高 2 生に対しては、早期からの入試対策をアピールすべく実施した。

Ⅱ-3 その他

①施設・設備の更新

- ・新型コロナウイルス感染対策
顔認証型サーモグラフィー、アクリルパネル、消毒薬の設置等感染対策を徹底した。
- ・全教室に wi-fi 設備を導入した。
- ・全教室の壁、階段柱を補修し、階段面の再塗装を実施した。
- ・自習室の椅子、LED 照明を全面更新した。
- ・7階・8階のレイアウトを変更し、メディカルコネクト自習室を拡充するとともに、個別指導室を新設した。

②新年度カリキュラムの見直し

- ・アウトプットの強化
従来の毎朝テストに加え、教科別週次コンプリートテスト（復習テスト）、ウィークリーリスニングを導入するとともに、公開模試受験を4月から義務づける等アウトプット面の強化を図る。
- ・高3生講座と高卒生講座の相乗り促進
高3生向け講座を極力高卒生の入試研究対策講座に統合し、本格的に相乗りを促進する。

③新年度奨学金制度の拡充

- ・成績優秀奨学生の授業料減免額を増額する。
- ・入学時の第一志望校合格者に「第一志望合格褒賞金」、毎朝テストの参加率優秀者に「朝励賞」を新設する。

④各種広報の見直し

- ・Web 広告
学院本体、メディカルコネクトの HP をリニューアルし、新学年に向けたリスティング広告（キーワード検索）、ディスプレイ広告を本格的に実施した。
- ・交通広告
各線高田馬場駅を中心に要所に交通広告を掲出した。
- ・DM
既往入学者実績に基づき、DM 配布エリアを絞り込み効率化を図った。

以 上